

過年度学部卒業生へのアンケート概要報告

【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和4年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

【方法】

1. 調査対象

・令和元年度に入学し、令和4年度に卒業した学部生。

2. 調査方法

・上記対象卒業生に郵送で依頼文書を送付し、QRコードによるアンケート調査を実施した。

600名に送付したところ、50名の回答を得ることができた。（回答率8.3%）

2. 調査期間

・令和6年8月6日から令和6年8月31日

【結果】

問1.性別

項目	男	女
回答数	31	19
割合	62.0%	38.0%

問2.卒業した学科

学科	対象者数	回答率
・体育学科	24	48.0%
・健康福祉学科	7	14.0%
・スポーツ栄養学科	9	18.0%
・スポーツ情報メディア学科	3	6.0%
・現代武道学科	3	6.0%
・子ども運動教育学科	4	8.0%

問3.本学の教育内容はいかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	14	22	11	3	0	50
割合	28.0%	44.0%	22.0%	6.0%	0.0%	100%

分析結果：本学の教育内容に関しては、令和5年度の分析結果では、肯定的評価（満足している・やや満足している）が70%、否定的評価（不満である・やや不満である）が13.4%、どちらともいえないが16.7%であった。当時の分析では、肯定的評価が前年度比で若干上昇していたものの、否定的評価も上昇しており、その原因や要因の検討が必要とされていた。令和6年度のデータを見ると、肯定的評価が72%に上昇し、否定的評価が6.0%に減少している。どちらともいえないは22.0%に増加している。この変化は、教育内容に対する全体的な満足度の向上を示唆している。特に「やや満足している」の割合が増加し、「不満である」という回答が0%になったことは、大学の教育改善努力が実を結びつつあることを示している。一方で、「どちらともいえない」の回答の増加は、教育内容に対する学生の評価基準がより多様化・複雑化している可能性を示唆している。これは、教育内容の多様化や学生のニーズの変化、あるいは社会情勢の変化による影響を反映している可能性がある。

問4.本学の施設、設備は充実していましたか

項目	1.充実している	2.やや充実している	3.どちらともいえない	4.やや不足である	5.不足である	合計
回答数	17	22	6	3	2	50
割合	34.0%	44.0%	12.0%	6.0%	4.0%	100%

分析結果：本学の施設、設備の充実度については、令和5年度の分析結果では、肯定的評価が73.3%、否定的評価が20.0%、どちらともいえないが6.7%であった。当時の分析では、肯定的評価が前年度比でやや上昇していたものの、否定的評価も上昇しており、その原因や要因の検討が必要とされていた。

問5. 本学の就職活動支援はいかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	11	8	24	5	2	50
割合	22.0%	16.0%	48.0%	10.0%	4.0%	100%

分析結果：本学の就職活動支援については、令和5年度の分析結果では、肯定的評価が43.4%、否定的評価が18.3%、どちらともいえないが38.3%であった。当時の分析では、肯定的評価が前年度比で減少し、否定的評価が上昇していたため、就職活動支援の在り方について再検討が必要とされていた。

令和6年度のデータでは、肯定的評価が38%に減少し、否定的評価が14.0%に減少している。どちらともいえないは48.0%に大幅増加している。この変化は、就職活動支援に対する学生の評価が明確な肯定や否定から中立的な立場へとシフトしていることを示している。これは、就職活動支援の内容や方法の変化、あるいは就職市場自体の変化に学生が適応しきれていない可能性を示唆している。肯定的評価と否定的評価の双方が減少し、「どちらともいえない」の回答が大幅に増加していることは、就職活動支援の効果が学生にとって不明確になっているか、または個々の学生のニーズと支援内容のマッチングが複雑化している可能性を示している。

問6. 本学で学んだ知識や経験は現在の職場で活かされていますか

項目	1.活かされている	2.やや活かされている	3.どちらともいえない	4.あまり活かされていない	5.活かされていない	合計
回答数	19	19	5	4	3	50
割合	38.0%	38.0%	10.0%	8.0%	6.0%	100%

分析結果：「活かされている」「やや活かされている」の合計値が63.3%（令和4年度）から76%（令和5年度）と12.7%上昇し、「あまり活かされていない」「活かされていない」の合計値は26.6%（令和4年度）から14%（令和5年度）と12.6%減少した。以上のことから、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和された影響で、大学での活動時間が増え、「大学での活動や経験」を印象付け、肯定的な回答が増加したのではないかと考える。

問7. 仙台大学を卒業していかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	26	15	6	3	0	50
割合	52.0%	30.0%	12.0%	6.0%	0.0%	100%

分析結果：「満足」「やや満足」の合計値は78.3%（令和4年度）から82%（令和5年度）とわずかに上昇し、「やや不満である」「不満である」の合計値は8.8%（令和4年度）から6%（令和5年度）とわずかに減少した。

問8. 本学は、体育・スポーツ及び健康分野を通して、グローバル化の視点に立った教育に重点を置いています。また、教養を供え、人間性豊かな行動規範を培い、専門的知見・技術を身につけた人材を養成することを目的にもしております。卒業時にその力が身についたと思いますか

項目	1.身についた	2.やや身についた	3.どちらともいえない	4.あまり身につかなかった	5.身につかなかった	合計
回答数	17	20	9	3	1	50
割合	34.0%	40.0%	18.0%	6.0%	2.0%	100%

分析結果：「身についた」「やや身についた」の合計値は71.7%（令和4年度）から74%（令和5年度）とわずかに上昇した。また、「あまり身につかなかった」「身につかなかった」の合計値は11.7%（令和4年度）から8%（令和5年度）とわずかに減少した。

本調査の分析

調査対象とした卒業生は、2年次から4年次までコロナ禍での学生生活を経験している。その中で、本学の教育内容や施設・設備、知識・経験の活用や総合的な満足度といった項目で前年度卒業生対象のアンケートから改善がみられたことは、コロナ禍における本学の学生生活への対応が一定程度評価されたといえるだろう。

一方で、就職活動についてのアンケートでは、学生評価が前年度と比較して中立的な立場へシフトする傾向がみられた。このことは、コロナ禍における学生に対する本学の就職支援に不足していた部分があったことを意味すると考えられるため、今後改善が必要となる項目と考えられる。